

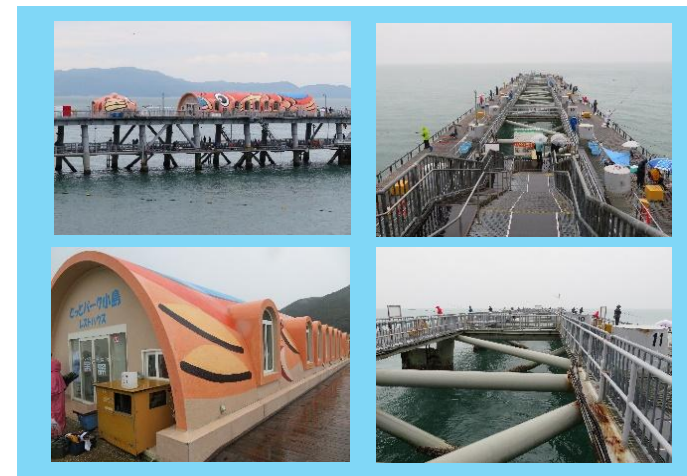
01 | 2018年度 プロジェクトS活動報告①

1 釣り桟橋視察

(1) とっとパーク小島(大阪府岬町)



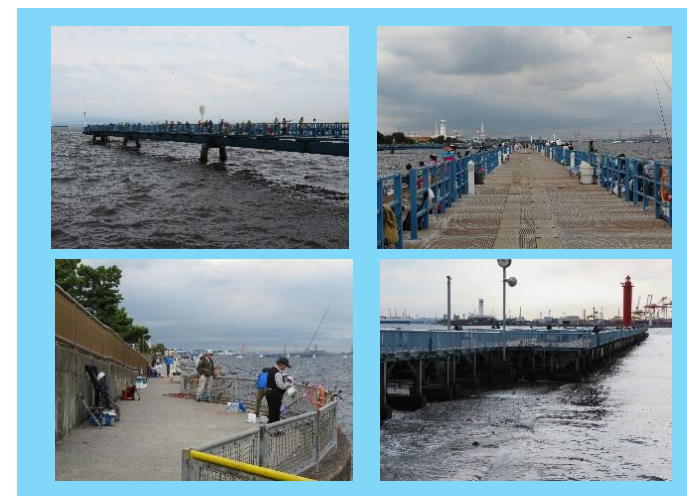
- ア 日時
平成30年9月26日(水)午後2時～午後3時30分
- イ 場所
岬町海釣り公園・道の駅とっとパーク小島
- ウ 参加者
尾鷲市3名(政策調整課2人・商工観光課1人)
中電グループ6人
- エ 対応者
指定管理者 小島フィッシング(株)とっとパーク小島



(2) 横浜フィッシングピアーズ【本牧・大黒海釣り施設】(神奈川県横浜市)



- ア 日時
平成30年10月12日(金)午前10時～午後4時
- イ 場所
横浜市港湾局みなと賑わい振興部賑わい振興課
横浜フィッシングピアーズ(本牧・大黒)海釣り施設
- ウ 参加者
尾鷲市3人(政策調整課2人・商工観光課1人)
中電グループ7人
尾鷲商工会議所3人
- エ 対応者
横浜市港湾局みなと賑わい振興部賑わい振興課
指定管理者 イオンディライト(株) 横浜フィッシングピアーズセンター



01 | 2018年度 プロジェクトS活動報告②

2 中部電力尾鷲三田火力発電所見学会

(1) 開催日時

平成30年11月13日(火)・18日(日)・21日(水) 午前10時～午後0時

(2) 参加状況

3日間合計・・・参加者69人(男性38人・女性31人)
市内57人・県内7人・愛知県3人・東京都2人

	0代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
男性	4	0	0	1	7	7	10	8	1	38
女性	1	1	0	3	7	9	2	8	0	31
計	5	1	0	4	14	16	12	16	1	69



01 | 2018年度 プロジェクトS活動報告③

3 市民の皆さまからのご意見・ご提案のまとめ

募集期間：平成30年9月10日(月)～11月30日(金)

募集方法：市HP、郵送、FAX、電話

おわせSEAモデル プロジェクト	用途分類	ご意見・ご提案のまとめ（抜粋）
S	スポーツ	テニスコート、野球場、サッカー場、体育館、屋根付グラウンド、温水プール、スケボー、BMX、ボルタリング、ランニングコース、クロスカントリー、シャワー施設整備、レーシングカート場
	アクティビティ/レジャー	テーマパーク、屋内キッズパーク、おもちゃ館、屋根付イベント会場、釣り桟橋、檜シンボル館、雨のテーマ館、バンジージャンプ、避難兼展望台
	宿泊/リラクゼーション	各種キャンプ施設、グランピング、宿泊施設、別荘、温泉施設、巨大足湯、温水利用、憩いの場づくり
	公園	多目的公園、森林公園、散歩道、広場、松原海岸再現、ドッグラン、あずま屋、巨大滑り台
	観光	観光バス受け入れ、トイレ整備、駐車場整備、煙突シンボル化、ヨットハーバー
	教育	大学・高校との連携、研修施設、図書館、博物館、発電所記録館、ネイチャーセンター
	国等の施策誘致	飛行場、ヘリコプター場、海上自衛隊、海上自衛隊宿舎、燃料補給基地、大型客船接岸、自動輸送システム、競馬・競輪サテライト、空飛ぶ自動車試験拠点
E	エネルギー	木質バイオマス発電、小規模水力発電、広域ごみ処理施設推進、電力自給率100%の尾鷲
A	陸上養殖	あわび・タツノオトシゴ、ナマコ養殖、海ぶどう養殖
	農園	市民農園、一坪農園、温野菜の栽培、畑整備
	商業施設	ショッピングモール、尾鷲まるごと物産展開、魚・干物販売エリア、飲食店、野菜販売所
	工場誘致	ジビエ加工施設、ペットフード工場、魚粉工場、魚料理研究所、深層水活用
	漁港	尾鷲漁港移転、魚市場整備
その他	その他	20m級の丘、現状復旧(更地)

02 | 2018年度 プロジェクトE 活動報告①

1-1 エネルギー利用施設視察実績

訪問先	施設概要
(熱関連)	
◆北海道苫小牧市「Jファーム」	木質チップボイラー、ガスエンジンからの熱、CO2供給によるトマト、ベビーリーフ栽培
◆千葉県市原市「市原ニューエナジー」	発電 (1,950kW) + 排熱 (温水) 供給によるミウガ栽培
◆富山県富山市「富山環境整備」	発電 (1,500kW) + 排熱供給 (ヒートコンテナ) によるトマト、花卉栽培
◆長野県諏訪市「諏訪湖周グリーンセンター」	発電 (2,000kW)
◆三重県津市「グリーンエナジー津」	発電 (20,000kW)
◆三重県伊賀市「三重中央開発」	発電 (2,000kW) + 排熱供給 (ヒートコンテナ)
◆三重県多気町「多気バイオパワー」	発電 (6,750kW) + 排熱、CO2供給による藻類栽培
◆佐賀県佐賀市「佐賀市清掃工場」	発電 (4,500kW) + CO2供給による藻類栽培
(電気関連)	
◆香川県丸亀市「三菱電機」	スマートグリッド関連システム他 (低中圧直流配電システム)

1-2 エネルギー関連施設メーカー、関連団体情報収集実績

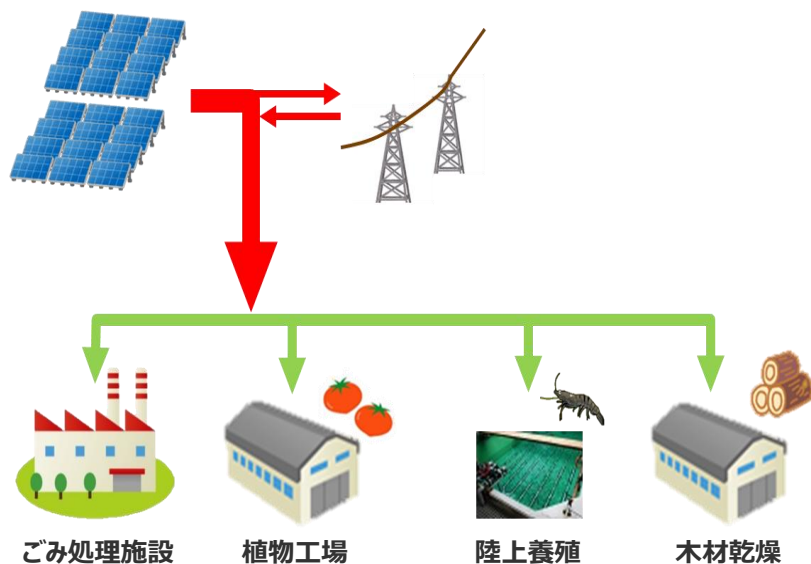
株式会社協和エクシオ、株式会社タクマ、JFEエンジニアリング株式会社、東芝エネルギーシステムズ株式会社、株式会社プランテック、川崎重工業株式会社、森林組合おわせ、三重くまの森林組合、野地木材工業株式会社、(財)日本環境衛生センター 他

2 EMSの効果概要（電気）

次の2パターンにて需要家側の電力コスト比較を実施

- A 太陽光発電設備2,400kWから発生する電力を全量固定価格買取制度（FIT）で売電。需要家は系統から電力購入
- B 太陽光発電の電力をグリッド内消費し、需要家に供給。需要家の不足分は系統から電力購入

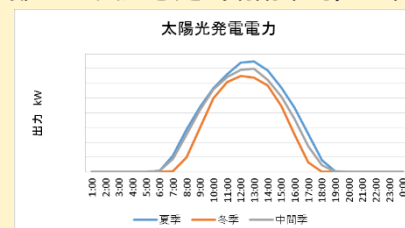
電力供給の構成



算定に使用した仮定

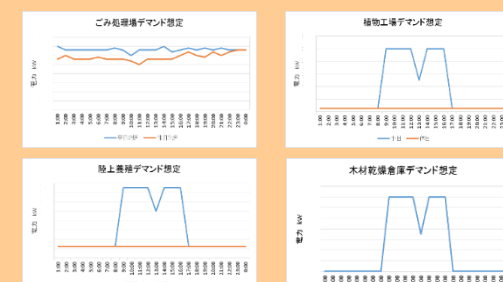
供給側の発電電力量仮定

エネルギー種別：太陽光発電
出力規模：2,400kW
季節ごとの出力想定（晴雨平均）は下図



需要家の電力使用仮定

事業者へのヒアリング等による



その他の仮定

- 電力供給側の収支がケースA,Bで同等程度となるよう、料金単価を設定
- 建設費・維持管理費等は、経産省の公開資料等から引用
- FIT価格：14円/kWh（2018年度の落札価格）

算定に用いた仮定の条件下においては、自営線等の費用を需要家から回収することを考慮しても、**太陽光のグリッド内消費の方が一般的に数%の電力コスト削減につながる可能性がある。**

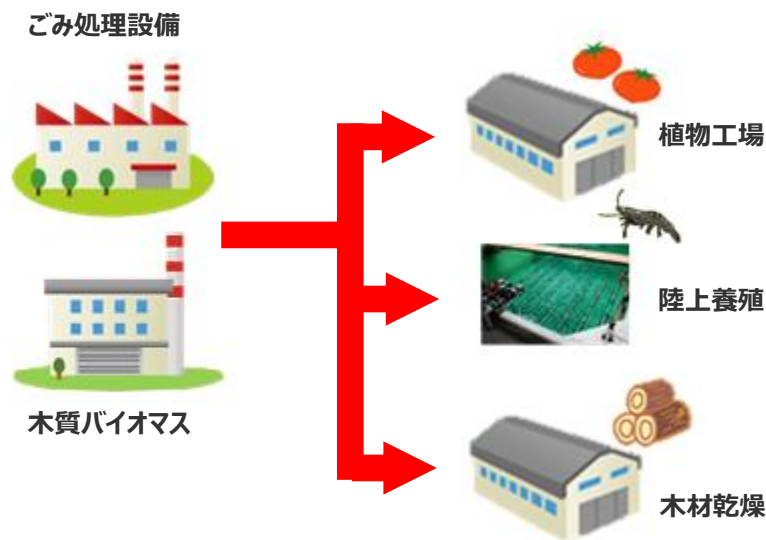
3 EMSの効果概要（熱）

次の2パターンにて需要家側の暖房コスト比較を実施

A 需要家は自ら設置する重油ボイラのみで暖房を実施

B エネルギー設備からの排熱を活用し、需要家へと排熱を供給。不足分を需要家自らの重油ボイラで暖房実施

熱供給の構成



算定に使用した仮定

供給側の熱供給量仮定

ごみ処理設備

熱回収率：50%
80℃の温水量を
右図のように仮定



木質バイオマス発電設備

排ガスを木材乾燥倉庫へと供給

温水
ガス

需要家の熱使用量仮定

事業者へのヒアリング等による

植物工場熱デマンド想定



陸上養殖熱デマンド想定



木材乾燥倉庫熱デマンド想定



その他の仮定

- インシャルトアップは重油ボイラにて実施し、温度保持をエネルギー設備からの熱供給で賄う
- ごみ処理設備の熱交換器費用増分は、温水費用として回収する
- ガスダクト、配管増設費用等は、中部電力実績を用いて積算
- 重油単価：80.2円/L

- 算定に用いた仮定の条件下においては、配管敷設等費用増分を需要家費用として考慮しても、**排熱活用により需要家の暖房コスト削減につながる可能性がある。**
- ただし、エネルギー設備の熱交換器費用が高額となった場合は、需要家からの費用回収が困難となる。

03 | 2018年度 プロジェクトA 活動報告①

アクア事業関係企業・研究機関訪問先

- ◆ 福岡県のエビ養殖企業
- ◆ 千葉県のサーモン陸上養殖企業
- ◆ 県内の藻類養殖企業
- ◆ 愛知県の手水産卸企業
- ◆ 陸上養殖システム開発企業
- ◆ 三重大学生物資源学部
- ◆ 国立研究開発法人水産大学校
- ◆ 国立研究開発法人増養殖研究所南勢庁舎
- ◆ 三重県水産研究所
- ◆ 三重県尾鷲栽培漁業センター
- ◆ 静岡県温水利用研究センター
- ◆ 各種セミナー 他



尾鷲商工会議所 H29.9~ 情報収集・情報発信活動

本州唯一の海ブドウ養殖
(三重県 Y社)



国内最大規模の
ミニトマト工場
(愛知県 I社)

アグリ事業関係企業・研究機関訪問先

- ◆ 県内の植物生産企業
- ◆ 県内のアグリベンチャー企業
- ◆ 愛知県の植物生産企業
- ◆ 三重県農業研究所
- ◆ NPO東海生研
- ◆ 各種アグリビジネスフェア 他

その他商工業事業関係団体・企業等訪問

- ◆ 各地の道の駅・地域密着型飲食施設
- ◆ 新潟県の手アウトドア関連企業・県内グランピング施設
- ◆ 和歌山県・大阪府・神奈川県の釣り桟橋
- ◆ 県内のバイオマス発電施設 他



キャンプ施設
(新潟県 S社)

陸上養殖事業化可能性調査

目 的：ウシエビの飼育試験を行い陸上養殖に係る基礎データを取得する

体 制：三重大学(生物資源学部 筒井 直昭 准教授)と尾鷲商工会議所・事業パートナーによる共同研究

協 力：三重県水産研究所 尾鷲水産研究室、関係機関・企業

概 要：平成30年11月20日 から土佐湾産の親ウシエビ（雄30尾）を用い尾鷲水産研究室で育成試験開始
尾鷲湾内水をかけ流し式により供給、加温区・対照区に分けて平成31年2月8日まで飼育（81日間）

ウシエビを調査対象とした理由

- ① 好適水温域25～30℃ バイオマス発電・ごみ処理施設からの**排熱**を熱源として利用できる環境
- ② 国内での商業ベースの養殖事例がなく**日本初**
- ③ 種苗生産稚エビ供給等の**協力事業者**の存在
- ④ おわせの**新たな地域資源**（新名物）になり得る食材



今後の活動

- 稚エビ（ウシエビ）を用いた**飼育試験**を三重大学及び研究機関・企業等の協力・指導により実施予定
- 市場調査とともに**ミニFS調査**を行う
- 事業・企業誘致活動を行う